

# 令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年 3月 13日  
札幌市立はまなす幼稚園

## 1 今年度の重点目標

思いやりにあふれ活力のある みんなが笑顔になれる はまなす幼稚園  
SMILE～笑みのあふれる園をめざして～

## 2 本年度の経営方針

- 1 子どもの笑顔のために 日々の SMILE 実践を
- 2 保護者・地域の笑顔をめざして 園として 組織として
- 3 職員も笑顔で 子どもの笑顔に向けて 職場の環境
- 4 研究実践園として 市立幼稚園の価値

## 3 自己評価結果に対する学校関係者評価 (A 達成されている B 概ね達成されている C 検討が必要)

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
人間尊重の教育・学ぶ力・豊かな心・健やかな体	一人一人の幼児を大切に思い、その子らしさが発揮できるような援助ができていたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児との関わりの中で、一人一人の声（言葉にならない思いも含め）を丁寧に引き出していくことを今後も継続する。</li> <li>・その子らしさが発揮できるチャンスを学年に拘らずタイムリーに活かしていく。</li> </ul>	A	A
	やりたいことに向かい、思いを巡らせながら遊びや生活に取り組めるよう、環境の構成や援助を工夫することができていたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児自身がより主体的に関わることができるような物的環境の充実を各学級で工夫する。</li> <li>・生活の流れについては学年間でより柔軟に調整する。</li> </ul>	A	A
	異年齢の交流や育ち合いを意識しながら、保育を展開することができていたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢の交流は今年度に引き続きタイムリーに取り組んでいく。</li> <li>・3年間の育ちを見通した保健指導の充実に努める。</li> </ul>	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児一人一人が自分の「やりたいこと」に向かって主体的に活動している。</li> <li>・保健指導の3年間の育ちを見据えた教育活動への取組が評価できる。</li> <li>・幼児一人一人にきちんと対応し、幼児の主体性を重視して目標が達成されていると思う。</li> <li>・「やりたい気持ち」→「発展していく遊び」→「子どもの達成感」、そして「成長」という子ども主体の保育を素晴らしいと感じる。</li> <li>・幼児一人一人の個性が活き活きとし、また各々の個性が混ざり合ってレベルアップし、先生方の想いが子どもたちの良い成長につながっていると思う。</li> </ul>				

信頼される幼稚園・発信	園だよりや学級だよりなどの通信物、掲示板やホームページなどで、教育活動が伝わるよう工夫して発信してできていたか。	A	・玄関掲示物やHP、参観懇談以外にも、保護者に日常の雰囲気を感じていただけのような機会を設ける。	A	A
	地域の人的、物的環境を積極的に活用し、幼児にとって豊かな生活となるよう工夫することができていたか。	B	・教師用近隣マップを作成するなど、新たな視点で、地域資源の活用を広げていく。 ・地下鉄駅が近いなど、本園の立地の良さ活かした活動を柔軟に計画する	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の関わりを求めたマップ作りは、あせらず小さな一歩の積み重ねを目指していただきたい。また、保護者の送迎機会を利用し、子どもの良さや活動の足跡を伝えられると良い。</li> <li>・送迎バスが無い分、保護者が先生方と関わる機会が多いので、その分の伝わりやすさを活かしていけると良い。</li> <li>・園の取組が分かりやすく伝わり、地域との信頼関係もできていると思う。地域の活用に関しては地域の代表として、次年度何か一つでもお手伝いできればと考えている。</li> <li>・たくさんの地域の方と触れ合って、子どもたちのさらなる貴重な経験を増やしてあげられると、今以上に子どもたちにとって良い環境になるのではないかと。</li> </ul>				
研究実践園の取組の推進	保護者や地域、幼保小などの関係機関に研究の取組について分かりやすく発信することができていたか。	B	・保護者にも研究内容に関心をもっていただけるよう、研究便りの発信回数を増やすとともに、伝わりやすい工夫をする。	B	A
	ポロップひろばやはまなすっこクラブは、安心して利用しやすい内容や雰囲気であったか。	A	・ポロップひろばを楽しみに来園されている。参加者が増えるような発信先の拡充や、在園児と触れ合える午前保育日開催の充実に努める。	A	A
	地域教育相談や訪問支援等は、幼児教育支援員と教職員が連携し、2区対応がスムーズにできていたか。	A	・手稲区・西区の幼児教育支援員との連絡が付きやすいよう、分かりやすい動向把握の方策を改善する。	A	A
	現状を踏まえ、近隣の幼保小との連携や幼保小連携推進協議会で幼小のつながりをつくることできていたか。	A	・近隣小学校である西小との交流は引き続きより良い継続を図る。 ・近隣保育園とは、しらかば公園での出会いなどを活かせるよう教師の意識を高めていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市立幼稚園としての役割を果たすことの大変さが伝わってきた。預かり保育、給食（外搬弁当）など、様々な実情を伺い、教職員の働き方への配慮を考えながらの園運営は学校と重なる。</li> <li>・地域の子育て支援にもつながる「はまなすっこクラブ」の活動には期待している。</li> <li>・子育てに悩みを抱えている保護者が増えている昨今、気軽に相談でき具体的なアドバイスをしていただける教育相談の場になるとありがたい。</li> <li>・今年度は幼保小の濃い連携をされていて親子共々楽しみにしていた。特に小学校との連携はスムーズな進級に繋がる良い経験と感じる。今後も継続していただきたい。</li> </ul>				